

二〇一六年八月二六日

炎暑来てミスト広場にひとやすみ
クリオネの羽うちふるふ涼しさよ
のけぞりて雨乞いの法螺吹き鳴らす
ドライブの窓に伴走秋の雲
日盛りの揚羽入りくる深底
あひ揺れてネオンの影と流灯と
こころして水やりたれど庭枯るる
酸欠の金魚のごとく暑に耐ふる
酔芙蓉白無垢なりしあしたかな
おしくらのごと鈴なりの葡萄かな
林立すクレーンの首やいわし雲
隣より鼻歌漏れて秋涼し

二〇一六年八月二五日

庭木刈る師匠の背へ秋日濃強し
閉店のほたるのひかり館涼し
貰はれて厨に鎮座大南瓜
着るあてのなき江戸褌を虫払

二〇一六年八月二四日

爽やかや賀茂の河原の潺湲と
松浜に憩へば処暑の風通ふ
露天の湯かなかな聞きつ足伸ばす
蒼天の雲居遙かに鳥帰る
大玻璃に秋の雲ゆくレストラン
窓の外にあきつ群舞すレストラン

はく子 たか子 なつき ぼんこ 有香 さつき 明日香 よし女 あさこ ともえ たか子 豆狸
明日香 満天 泰山 豆狸 菜々 よう子 隆松 明日香 満天 はく子

二〇一六年八月二三日

裏木戸に通ふ風あり凌霄花
ビル街の細き辻裏地藏盆
青空に薄き半月処暑の朝
人影に急げ急げと蟹もぐる
朝市女処暑をいひけりさう思ふ

二〇一六年八月二二日

度を越して慈雨とはならず秋出水
言ひ足りぬらし夕庭の法師蟬
推敲のベランダにくる風は秋
指染めてブルーベリーを摘みにけり
赤とんぼ乱舞す谷戸の中空に
忌に集ふ兄姉老いけり秋灯下

二〇一六年八月二一日

秋晴れて掃除ロボット機嫌よし
一片の雲を台座に望の月
施餓鬼会に迷ひし蠅を窓の外に

二〇一六年八月二〇日

いないいないばあくり返す大団扇
コンビニを出るに覚悟の猛暑かな

まゆ 宏虎 三刀 なおこ なつき たか子 うつぎ こすもす なおこ 宏虎 はく子

うつぎ 菜々 なつき

なつき ひかり

毎日句会みのる選・二〇一六年八月二八日